

学校関係者評価報告書（2024 年度）

2025 年 6 月 10 日

京都文化医療専門学校

学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、京都文化医療専門学校の
学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

2025 年 6 月 10 日

校長 野口 智樹

自己点検・評価責任者 竹内 健二

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的
2. 学校関係者評価の基本方針
3. 学校関係者評価委員会 出席者
4. 学校関係者評価委員会 実施日時
5. 学校関係者評価方法

II. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標（重点取組）
2. 学校運営
3. 教育活動（重点取組）
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受入れ募集（重点取組）
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域後見
11. 国際交流

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めると共に、学校関係者評価委員会の設置により継続的な連携協力体制を確保し、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員会 出席者

区 分	氏 名	所 属
業界関係者	孝本 乃子	歯科小児歯科乃子医院 院長
業界関係者	藤本 悠実	たけち歯科 勤務（実習指導者）
卒業生	柴垣 あかね	デンタルニコニー（自営）

※敬称略

4. 学校関係者評価委員会 実施日時

実施日時：2025年6月10日（火） 14：40～16：00

場 所：京都文化医療専門学校 会議室

5. 学校関係者評価方法

2024年度の自己点検・自己評価報告書に基づき、評価項目の結果および課題、改善方策について以下の視点から評価を行った。なお各評価は4段階に区分している。

①自己点検・自己評価結果が適切かどうか

②背景や課題への認識が適切かどうか

③改善方策としての取組みが適切かどうか

（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）

※自己点検・自己評価についても同様に4段階評価となる。

Ⅱ. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

社会が求める歯科衛生士の役割は口腔健康の維持・増進をはじめ、高齢化社会への対応や多職種連携など多岐にわたる。また歯科衛生士養成校の社会的責任としては、高度な専門知識・技術の習得、倫理観の育成、コミュニケーション能力の育成、生涯学習の促進、地域社会への貢献などをあげることができる。

また、地域においては各医療機関より歯科衛生士人材の不足が強く懸念されており、歯科衛生士養成校に対して人材供給力としての期待が高まっている。本校は、地域における歯科医師会や歯科衛生士会との連携の下で、各地域における歯科衛生士の人材供給を効果的に行うことが求められており、具体的に取り組むを実行していかなければならない。

本校では、本校を取巻くステークホルダーの方々の声に耳を傾け、その声を学校運営に反映させながら、より付加価値の高い教育活動を通じて社会的責任を果たしていきたいと考えている。そのために本校では、国家試験の合格はもちろんのこと、基本的知識や技術に加えて、医療従事者としての人間性や倫理観を備えた歯科衛生士を養成するためのカリキュラムの構築を目指す。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

2. 学校運営

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営方針や意思決定機能は、規則等において 明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は歯科衛生士養成校として社会の変化に対応した人材育成を行うことが求められているが、社会のニーズとのミスマッチや多様化する学生への対応、教職員の確保と資質の向上、学校施設の維持や更新など学校運営上の様々な課題を抱えている。

社会のニーズとのミスマッチについては、技術革新や産業構造の急速な変化に伴い医療業界に大きな変化が生じることが考えられる。また多様化する学生への対応については、学歴や経験、年齢、国籍など、多様な背景を持つ学生に対応することが難しくなりつつある現状がある。

このように社会の急速な変化の種をみつけ、それを認識し、素早く対応していくことが求められており、付加価値の高い学校運営を行うことが課題となっている。

歯科衛生士養成校は、単に歯科医療技術を教えるだけでなく、地域社会のニーズに応え、

口腔保健の向上に貢献できる歯科衛生士を養成することが求められている。そのため本校においては、教職員の資質の向上や学校と地域社会との連携強化、学校運営の効率化などを通じて社会の急速な変化に対応し、付加価値の高い学校運営を行うことが重要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

・今は京都に4校の歯科衛生士養成校があり、多様なスキルを持つ歯科衛生士を養成できる環境が出来たことは良いことだと思う。

3. 教育活動（重点取組）

（自己点検・自己評価における評価）

評 価 項 目	4 段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校においては、社会のニーズの変化や歯科医療技術の進化・発展に伴い、様々な課題を抱えている。主な課題としては学生の実習環境の不足や、教職員の資質の確保、教育カリキュラムの多様性・柔軟性、就職支援の強化、学校運営の効率化など多岐にわたる。また昨今では、学生の多様化が進んでおり、学生の学力や経験、価値観の多様化などに対応したきめ細かな指導スタイルの確立が必要となってきた。

このような環境下で、社会からの要請との間にかい離することなく、付加価値が高く、即

戦力としての人材育成が本校の責務であると認識しているが、歯科衛生士として臨床の場において求められる資質を備えるために、臨床実習施設等と一層の連携を図りながら、充実した臨床実習等を行うことが大切であると認識している。

本校ではより充実した教育活動を実践するため、教育環境の整備や教員の育成・サポート学習支援の強化、カリキュラムの見直しなど外部環境に合わせて機動的に見直していかなければならない。

そのためには本校を取り巻く様々なステークホルダーが抱えるニーズを把握する必要がある。実習施設や保護者、学生、地域社会、就職先施設等と連携を取りながら、ステークホルダーが抱えているニーズを把握するために、意見交換をする機会を設ける必要がある。例えば学生アンケートを実施し、授業内容や教授方法等について意見を聴衆する機会を設けているが、これらの評価結果を効果的に取り入れていけるような評価・改善システムの確立が必要である。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

・歯科衛生学科を設置する他の大学や専門学校とは異なる付加価値を明確にしていく必要があると考えます。

4. 学修成果

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	2
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

国家資格取得については、本校独自のカリキュラムにより個別対応を軸とした試験対策を行い、合格に結びつけるようにしているが、個々の学生間において学力や理解の程度に幅があることから、より一層の工夫と対策が必要であると認識している。

退学率については、本年度も引き続き昨年度と比較すると継続的に改善しているが、今後も良い状態が維持できるように継続的な取り組みが大切である。学生一人ひとりに考慮した対応が必要となる。

就職については、歯科衛生士の求人状況が活況であることから、就職希望者の就職状況は良好であると言える。今後は、卒業生の求人・就職ニーズについても情報を収集する仕組みを作り、歯科医療業界における歯科衛生士の求人ニーズに対応していくことが求められている。

国家試験対策については、国家試験対策科目の強化や過去問演習の徹底、模擬試験の実施、臨床実習との連携など、さまざまな取組みを複合的に行うことで、合格率の維持・向上に努めたい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・国家資格の合格率の維持については、年度ごとに合格率の高低にばらつきがあり、管理が難しいところだと思う。知識量が十分ではない学生についても根気強く指導していくことが大切だと思う。学生に学習の習慣をいかに身につけていくのか教員の指導力が必要な側面ではあるが、根気強く指導をしてもらいたい。

・3年間という限られた時間で、卒業後即戦力となる人材の育成をするためには、限られた期間で「基礎+応用」をこなし、学校教育の場と臨床の現場との違いを伝える必要がある。

・本校の学生の資質は年々向上していると感じている。但し、知識量や技術力が不足している学生も見受けられるので、卒業後の臨床現場における即戦力としてのポテンシャルを高めていく教育も大切だと思う。

5. 学生支援

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学生支援には、①学習面 ②進路選択(就職、進学) ③経済面 ④メンタルヘルス 等の側面があると認識しており、それぞれにおいて対応できるように教職員間の情報共有を図りながら支援を行っている。ここ数年来、経済的側面に関する相談が増加しており、奨学金や教育ローン等の紹介や説明等を行っているところであるが、経済的な側面のみならず、同時に生活・学習面においても支援が必要なことがあることが多い。学生の声に耳を傾けながら、教職員間において情報共有を密に図り、適宜適切な支援が行えるよう、十分な支援体

制をより一層構築する必要がある。

そのために現在、教職員間のコミュニケーションを図るために各種会議体や研修等を行っているが、今後はより情報共有の密度を高めるために、定時性の高い仕組みを取り入れることが重要である。

経済的なサポートについては、2024 年度より歯科衛生学科が専門実践教育訓練給付金の指定講座となっており、すでに学生がこの制度により学んでいる。これにより次年度も引続き社会人学生の経済的ニーズに合致した広報展開を行うことが可能となっており、対象学生の拡大を目指したい。

また、修学支援新制度については 2025 年度より多子世帯を対象とした満額の支援を含めた授業料減免の実施が予定されているが、制度固有の分かりにくさが根底にあるため、学生や保護者への周知が思うように進んでいない。本校としても可能な限り学生や保護者に分かりやすく説明を行い、周知を図りたい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

・セルフケア用品など歯科専売の物品を学校経由で学内で購入できる機会があれば良いと思う。このような購買行動を通じて、学生が将来の保健指導や患者様へセルフケア用品を提案する練習になると思う。能力が伸びる可能性のある学生をより伸ばすことが出来るような環境があることは学校の強みになると思う。

・本校の学生の図書室の利用状況が低いことが気になる。勉強に有益な書籍が多数あるので活用してもらうために促してみてもどうか？

・本校の実習生と接する中で、学生と先生との間にしっかりとした信頼関係が築かれていると感じることがある。安心した環境の中で学生が学べることが、学生の成長に大きく寄与していると感じている。

・国家試験に不合格だった昨年の実習生が、歯科助手として働きながら再受験に励んでいます。本校が卒業後も再挑戦を支援する体制があることは、学生のモチベーションの維持につながると感銘を受けました。

6. 教育環境

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について 十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

歯科衛生士養成校における教育環境の改善に向けた取り組みは、非常に重要であると同時に、多様な課題を抱えている。具体的には、教職員の人材の確保、カリキュラムの見直し、実習環境の整備、学生のモチベーションの維持など多岐にわたる。教育環境を改善するためには、それを実践する専門性の高い教職員の確保が必要となり、これがカリキュラムの見直しや学生のモチベーションの維持につながり、学生と実際に接する教職員においてはやはり専門性が求められることになる。専門性の高い教職員の確保は特に喫緊の課題となる

専門性の高い教職員を確保するために定期的に教職員研修を実施し、最新の歯科医療技術の獲得や多岐にわたる運営上の課題に対応できるような人材の育成に努めることが大切であると認識している。教育環境の改善は一朝一夕にできるものではない。教職員や学生、地域社会等と連携しながら継続的な取り組みを進めていかなければならない。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取り組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からのご意見)

・学生の技術面のスキルアップを支援するために、放課後に学生が学校の施設を使って練習が出来るようにするなどのサポートをしてあげて欲しい。または自宅でも同じように練習が出来るようにサポートしてあげて欲しい。

・手元を映し出すカメラ（書画カメラ等）を活用して手技を学ぶ一助としてあげてほしい。

・私の勤務先である施設に本校の実習生が実習に来てくれたが、院長から「ぜひ採用したい」とのコメントがあるなど礼儀正しく、明るい対応ができる学生が見られ、優秀で素晴らしい学生がいると感じた。

7. 学生の受入れ募集（重点取組）

（自己点検・自己評価における評価）

評 価 項 目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	4

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校における広報活動は、本校の魅力を伝え、多くの学生を引き付けるうえで大切な取組みとなります。しかし、近年では少子化の進展や進学・就職における多様な選択肢の増加など、様々な要因から広報活動を取巻く環境が変化しており、新たな課題が生じている。具体的には、競合校との差別化や情報収集の難しさ、少子化の進展、SNS活用の難しさ、コロナ禍の影響による歯科衛生士の職業イメージの変化など、広報活動を取巻く時代の変化は多様化している。

本校における広報活動については、競合校との差別化を図るためにもより一層多様化しなければならないと認識している。

オープンキャンパスについては体験型のイベントを増やし、リピーター向けにより充実したカリキュラムとする。

情報発信については、様々なSNS、情報媒体等が存在するが、潜在的な入学者の獲得のためには情報の接触機会を高める取組みが必要である。少子化の進展とあいまって、個別対応の強化も必要となるため、個別相談会の実施時間の拡大を図り、夕方の時間帯に対応し、社会人ニーズへの対応を図りたい。

（学校関係者評価委員会における評価）

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・今後ますます、他の歯科衛生士養成校との学生獲得競争が激しくなることが予想されるので、他校との差別化をしっかりと図ることが大切だと思う。

8. 財務

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制準備はできているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。しかし、学校法人を取り巻く環境の変化や会計の厳格化を背景として、学校法人の経営状態を社会に対してより正確に、分かりやすくすること、そして適切な学校経営の判断に役立つものとするのが大切であるとの認識を持っている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

9. 法令等の遵守

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・自己評価結果を公開しているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校では、専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領等の法令や基準等に基づき学校運営を行っている。また個人情報については、個人情報の保護に関する法律の趣旨や目的を鑑み、個人情報の適正かつ効果的な活用等をもって、本校を取り巻く利害関係者の安心・安全を確保することにつなげていきたいと考えている。

また近年、情報通信技術（ICT）の進展に伴い、様々な情報をデジタルデータとして収集・蓄積・管理・加工・編集し、ネットワークや記憶メディアを通じてやり取りすることが容易になっている。個人に関する情報も、インターネットやスマートフォン等を通じてやり取りされる機会が増加しており、これらを扱う本校にとっても、個人のプライバシーや個人情報の保護が重要な課題となっていることから、個人情報保護の取り組みをより強固なものとするために、学校運営の仕組みを構築し、同時に全教職員が個人情報保護に対する認識をより向上させるための教育が重要であるとの認識を持っている。

本校では、学校に設置されているパソコン端末の Web アクセスを一元管理し、証跡を追える Web プロキシのログを取得することで、Web セキュリティー対策を実施している。さらに各パソコン端末の Web アクセスを制御することで、出口対策を行い不用意に組織内部の情報が外部に晒されることがないように仕組みを構築し、個人情報の保護に必要な対策を講じている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取り組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・特筆すべきコメントはありません。

10. 社会貢献・地域貢献

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む） の受託等を積極的に実施しているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は地域医療の人材を育成する教育機関であり、社会貢献や地域貢献、ボランティア活動等の取り組みを積極的に実施すべきであると認識している。

学生のボランティア活動については、学生が積極的に参加できるように情報提供を行うとともに、側面的な支援を実施したい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取り組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

1 1. 国際交流

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

留学生の受入れを実施した場合、留学生に適切な教育環境を提供することが求められる。また、留学生が資格取得後に引き続き国内で活躍できるような環境を確保するために、様々な環境整備が必要となる。このような環境整備には本校のみならず、行政機関、業界団体、地域社会、消費者等の利害関係者による検討や制度設計等が必要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

・外国人留学生が本校などの歯科衛生士養成校を卒業し、歯科衛生士の国家資格を取得し、日本で歯科衛生士と活躍していく道筋は十分にあると思う。留学生に対しても門戸を開いてほしいと思う。

以上